

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0370500597		
法人名	株式会社 グランツ		
事業所名	グループホーム ぽっかぽか		
所在地	岩手県花巻市四日町二丁目一番一号		
自己評価作成日	平成24年12月21日	評価結果市町村受理日	平成25年5月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/03/i/index.php?act=on_kouhyou_detail_2012_022_ki_hon=true&Ji_gyosyoCd=0370500597-00&Pr_efCd=03&Ver_si_onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	(公財)いきいき岩手支援財団
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成25年1月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個々の利用者の『願いを叶える』ことを介護の方針とし、会話を多くもち、好きなもの喜んでいただける事を感じ取り、共感をもとに最大限その願いが叶えられるようなサービスを提供する。季節の行事を大切に、個々の利用者様のお好みに合わせた外出やドライブなど、楽しみのある暮らしを提供している。円滑な利用者間の関係を取り持ち、公平な気配りを心掛け、快適で居心地の良い場所となるよう努力している。またチームケアの大切さを重んじ、スタッフ間のコミュニケーションも大事にしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームぽっかぽかは、JR花巻駅から北へ約700メートルのところの住宅地の中に立地し、この本社のほかに、2つの複合型福祉サービスを行なう事業所等を有している。
当事業所の特徴点は、
①「願いを叶える」(グランツ)という理念、介護方針に沿うよう、利用者のごとく、しぐさ等からその意を汲み取り、思いを叶えるように支援をしている。
②3事業所の連携を密にして、それぞれの特徴を共有し、利用するようにしている。
③季節の変化を五感で感じることが出来るように、季節の花を飾ったり、季節ごとの地域の行事を事業所内で行なったり、地域のイベントに参加し交流を深めるなど日々変化のある生活が出来るよう工夫されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「思想、能力、人生・人格の尊重、生活スタイルの尊重、という事業所理念を、職員が利用者を支援する際の基本的姿勢として定めている。また利用者の「願いを叶える」という意味)を目標に、ケアにあたっている。	法人の掲げる理念(願いを叶える)、職員で話し合っ て決めた介護方針の実現に向けて日々スタッフが細かな配慮のもと、一致して利用者のケアにあたっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会への加入や回覧板配りを行い資源回収や一斉清掃などに参加している。地域の行事等にはできる範囲で積極的に参加しており、施設行事にもご案内している。また利用者さんとの散歩の際にも気軽に挨拶を交わしている。	地域の自治会に加入し 諸行事で例えば、一斉清掃や資源回収などにも参加し、花巻祭りなどのイベントの見学に出かけたり、近くの保育園児や婦人会のボランティアの訪問もあり、地域との交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設見学、運営推進会議の際に内部でのサービスの特徴、認知症の基本的意識やケアについてお伝えしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は二ヶ月に1回開催されいる。ホーム側からは利用者の生活状況や行事などを報告し、地域の代表からはそれについてのご意見地域の行事等の情報を得ている。	運営推進会議のメンバーの出席率が良く、様々な提言がなされる。最近では外出の機会が少ないようだと指摘から、利用者に声掛けをして機会を捉えて外出を支援するようにしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護認定申請等必要に応じて出向き、運営上の疑問点等は都度ご担当者に確認させていただいている。また市役所より送付される事業所調査等に積極的に回答させていただいている。	市の担当者とは介護認定の更新の時、訪問する程度に止まっている。社協とは地域包括支援センターを通じて交流し、指導を受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関に鍵はかけておらず、また居室に鍵はない。職員は連携しながら利用者へのさりげない声かけや見守りにより、行動を抑制することのないケアに取り組んでいる。	身体拘束は原則的には行なわない旨、運営規定にも明記され、事業所内研修会でも、確認合っている。夜間夜勤者1人になった時は、不審者侵入予防のために玄関への施錠は行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	ミーティング等で虐待防止について学び、スタッフ同士で声掛けの注意点を指摘し合い、虐待に繋がることのないよう留意している。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームぽっかぽか

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等に参加し、地域福祉、権利擁護事業や成年後見人制度について学び、報告書等で職員に報告し、必要に応じ活動できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前にサービス内容、重要事項、料金等を十分に説明し、納得いただいた上で契約を行なっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族会、ご面会時に意見の聞き取りをしている。他に家族アンケートも行っている。事業所内には苦情・相談窓口を設け、外部の苦情窓口についてもホーム内に掲示して、利用者・家族への周知を図っている。	家族の来訪時や、電話での生活の様子等の報告等の話す機会の中で、様々な意見や要望が出されている。例えば、戸外への外出を多くして貰いたい、介護の仕方等についてであり、その希望・要望に沿うように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月例ミーティングや患部ミーティングにて運営に関する意見を聴取しているほか、運営者・管理者との個人面談を行い、運営に反映している。	ミーティング等でも、気軽に自由に話し合える雰囲気があり、様々な提言がなされている。これにより、トイレの改修や、機械浴の出来る設備(浴槽)の導入などが行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	悩みや意見、提案を聞き入れる場として運営者・管理者と職員の個人面談を行っている。職員評価を実施し、個人評価・管理者評価・運営者評価を明らかにし、個々が次なる目標を設定できるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	オリエンテーションや内部研修を事業計画に明記し、また随時案内のある外部研修への参加も積極的に促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	花巻地域ケアサービス事業所連絡会に加入し、地域の同業者との交流の機会を持っている。また随時施設見学の依頼を受け、当事業所サービスについて理解していただく機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族や親戚からの申込が主で、その際に本人の意向を伺うことは困難だが、自宅や入院先等にアセスメントに出向き、じっくりお話を伺い本人の不安や願い、心身の状態などを把握する機会を設けている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族等が相談に来た際、困っていることや不安なこと、求めていることなどをよく伺うよう努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容が他の居宅介護サービス利用によっても解決可能と考えうる問題であれば、当法人内のケアマネージャーにも同席や相談を求めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物たたみやシーツ交換、居室の掃除機がけや食材を新聞紙に包むなど職員と利用者が一緒に行っている。また利用者から教わることも多く、学んだり支え合う関係が築けるよう努めている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の際には普段のご様子を詳しくお伝えし、家族会では利用者と家族が楽しく交流できる内容を企画し、毎月のサービス計画書の中に利用者の家族への思いが伝わるようなエピソード等を盛り込むなど、より良い関係が築けるよう努めている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族からの了解を得た上で、馴染みの方からの手紙や面会、電話等を受け入れている。なじみの美容院を継続し、また地元での行事へは積極的にお連れし馴染みの方との交流が得られるよう努めている。	家族や知人の方の面会来訪が多い。地域のイベントには希望者を募り、出来るだけ多く方に参加いただくようにし、地域の方々と交流を図れるようにしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間の相性や要望を考慮し外出やレクを行っている。利用者間のトラブルを未然に防ぐよう都度席替えを検討し実施するなど、円滑な利用者間を取り持つよう配慮している。			

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームぽっかぽか

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	グループホームを退居された方については、必要に応じて家族や関係機関に情報を聞き、ホームの行事などに参加できるよう勤めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「願いを叶える介護」を目標に、日常生活の会話の中でご要望を聞き取り、反応を読み取り感じ取っている。個々の介護方針をミーティングで検討している。	本人から直接、「してもらいたいこと」等の希望・要望を述べることは殆んどないが、仕草などから思いを推察して、その具現化に向け、努力している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントで生活歴やサービス利用の経過等を家族、本人から伺っている。家族の了解を得て、他事業所からもサービス利用時の状況を聞き、把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	カードックスに一日の様子を記録し、一週間ごとに見ることができる。朝・夕のミーティングで一日の様子、月例ミーティングで一ヶ月の様子を振り返り、介護方針に反映させている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者利用者ごとの担当職員が利用者の状態、本人の意向に合わせた必要なサービスを考え、月例ミーティングで他の意見も取り入れた上でサービス計画書を作成している。それを毎月家族へ郵送し意見を伺っている。	直接ケアに当たっている職員とケアマネージャーが利用者の日々の生活の変化を観察し、記録したデータをもとに、月例ミーティングで全体的に話し合いをして、ケアプランの見直しを図るようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カードックスに日々の様子、連絡ノートやミーティングノートに特に変わったこと等を記入している。職員は勤務に入る前に目を通し、情報の共有を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	彼岸や盆正月には家族と過ごせるよう支援している。ご自宅での外泊が困難でご希望があれば、家族がホームに宿泊することも可能。出向くことが困難で希望があれば散髪もサービスで行う。通院は原則事業所対応としている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームぽっかぽか

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議では区長・自治会長・民生委員より地域資源についての情報を頂いている。花巻市文化会館で行われる郷土行事等にも協力を得ながら参加しており、事業所にはボランティアを招いて行事を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族等の特段の意向のない場合は、入居前からのかかりつけの病院を引き継ぎ利用する。また、必要に応じて協力病院に変更する場合、本人や家族に理由等十分に説明し、了解を得た上で変更している。	利用開始前からのかかりつけ医を継続している方もいるが、入居後は、市内の協力医である、脳神経の専門医をお願いする方が多い。通院には2人体制で行い、医師との情報交換を大切にしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当事業所の看護職員が日常的に健康管理に努めている他、適宜かかりつけの病院の医師、看護師にも相談し、適切な指示を頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	定期的に入院先への見舞い、経過の把握、ケアのお手伝い等を行い、その都度情報を交換している。また、退院許可のあった際には、本人・家族の意向も踏まえつつ極力早く退院できるよう調整している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の処置やケアの意向を本人・家族に伺い、その意向を叶えられるよう支援している。日常的に医療行為が必要になった場合には治療的した病院への入院、介護老人保健施設への入所、有料老人ホームでの訪問介護サービスなどを受けれること等を進めている。	重度化して医療行為が必要になった場合については、医療機関をお願いすることを原則としているが、家族の要望等があれば、可能な範囲で介護を継続することとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日頃からミーティング等で急変・事故発生時の対処方法を話し合ったり訓練をしている。また急変時対応マニュアルを作成し、全職員が内容を把握するよう努め、緊急時に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的避難訓練を実施し、災害時に対応できるよう努めている。また、火災・地震時対応マニュアルを作成し、全職員が内容を把握するよう努め、火災時に備えている。	避難訓練は年2回実施し、夜間を想定しての訓練は、隣接する介護支援ハウスの夜勤者と2人で実施している。地震火災対応マニュアルは出来ている。後付けでスプリンクラーも設置されている。	住宅地の中にある事業所でもあるので、避難訓練時には隣接する住人の方にも参加協力してもらおう等、地域との協力体制を構築しておくことに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常的なケアには利用者のプライバシーに十分配慮した声かけや自尊心を傷付けることのないような対応を心掛けている。個人情報の使用の際には利用者や家族の同意を得ている。	日々のケアの言葉かけ等には、傾聴の気持ちを大切に、決して命令口調にならないように心がけている。トイレ誘導も、自尊心を傷付けることのないよう、心配りがなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人から困っていることや不安なことを聞き取れるよう個人に合わせ、ゆっくりと会話できる時間を設けている。また押し付け的にならず、利用者が「Yes/No」を選択できる声かけを心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の利用者の生活リズムを尊重し出来るだけ希望に添えるようその日の予定を調整している。レクや外出には無理強いないようお誘いし、個別での外出や買い物の希望にも対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類等の買い物に同行したり、基礎化粧品などもお好みに合わせ用意している。また入居前からの行きつけの美容院にお連れしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立には利用者の希望を取り入れ、季節の行事に合わせた献立を提供。彼岸だんごやきりせんしょ、草もち作りなどのおやつ作りは好評で皆さん喜ばれている。畑の野菜を食材に使用し、共に収穫の喜びを味わっている。	季節に合わせた献立や行事食を組み合わせ、変化に富んだ食事を楽しむこと出来るように工夫されている。事業所の菜園で、利用者が収穫した野菜等も食材として利用し、喜ばれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事やおやつの際、個々に適量を摂取していただけるよう声掛けや見守り食事介助をしている。また各利用者に応じ、硬さや大きさ、とろみなどに配慮した食事を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後もしくは就寝前に、一人ひとりの状況に応じた口腔ケアを行っている。必要に応じ、適宜歯科にも通院し、義歯口腔内衛生など口腔の状態を良好に保つよう努めている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームぽっかぽか

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的に排泄の声掛けをトイレ誘導を行い、必要に応じポータブルトイレを活用して頂いている。利用者の力を活用して排泄できるよう見守りや手順の声かけをし、出来るだけオムツへの移行がないよう支援している。	利用者によって、パット、リハパン、オムツなど多様である。トイレの失敗による羞恥心に配慮して、トイレ誘導は、時間・しぐさ等から察知して、それとなく声掛けをしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳酸菌飲料やヨーグルト、食物繊維の多い食品等を積極的に献立に取り入れるよう努めている。水分摂取に留意し、排便の有無等を記録している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には二日おきに入浴をお誘いしているが個々の希望に応じている。利用者職員が一对一でゆっくりと会話を楽むことが出来るひと時である。希望に応じて入浴剤も用意しており、ゆずやしょうぶなどを湯船に浮かばせることもある。	利用者の希望にもよるが、通常は1日おきに入浴するようにしている。リフトによる機械浴も出来るように、浴室が改善され、職員の負担軽減が図られるようになった。本人の了解のもと、異性による介助もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間眠れない利用者には、日中活動的に過ごすよう促している。昼寝を希望される方には居室にてゆっくりと休んでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の利用者ごとの薬についてミーティングで勉強会をしている。日常的に様子観察に努め、受診時に相談し、薬の変更等がある場合は記録し全職員に周知している。誤薬防止のチェック体制も整えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の利用者ごとの思いや願いを把握し、喜んで頂けることを提供している。嗜好品を把握し、楽しみや外出などを積極的に提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々のご要望に応じ、また提案してお誘いし戸外にお連れしている。常にイベント事の情報収集に努め可能な限りお誘いしている。また団体行動の苦手な方は職員と一对一で外出され、他に希望があればご家族様と利用者との外出に同行することある。	出来るだけ事業所内に閉じこもらない生活が出来るように、天候の穏やかな日は事業所周辺の散歩は勿論、買い物・祭りの見物・イベントへの参加見学など気楽に出かけられるように配慮されている。	

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームぽっかぽか

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には事務室にてお小遣いをお預かりし管理しているが、利用者本人にお小遣いは自身のものであることを良く伝えている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの了解を得た上で、馴染みの方からの手紙や面会、電話等を受け入れている。地元での行事へは積極的にご連絡し馴染みの方との交流が得られるよう努めている。また手紙の返事や年賀状などを一緒に書くなどの支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースでは室内灯やカーテンで採光を調節し、絵画や季節の花々、季節ごとの装飾をしている。リビングと台所が隣接しているので調理の音や匂いも感じることができる。	事業所内全体が、白を基調とした壁・天井で、明るい清潔感のある雰囲気となっている。リビングには季節の花を飾り、小正月でのミズキ団子など、季節の行事の飾りなども施され、季節の移り変わりを楽しむ事が出来るよう気配りがなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング・食堂には、椅子・テーブル・ソファがいくつかあり、玄関付近、台所にもご用意している。リビングで気の合う利用者同士で過ごしたり、少し距離を持ったり、台所で職員と過ごしたりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には使い慣れた家具などをお持ちいただき自宅での生活のような居心地の良さを感じて頂けるよう努めている。本人や家族と相談しながら、希望により買い物の援助をし、居心地良く快適に暮らして頂けるよう配慮している。	1室あたりの居室空間が広く、ゆったりと過ごせるようになっている。使い慣れた家具など思い出の品々を持ち込み、安心感の中で生活出来るように配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下には手すりを設置。ベッドには介助バーを取り付けている。他に、トイレの出入口に手すりを設置し、トイレの段差や階段昇降機の移乗にはすのこを用意。スロープには滑り止めを貼るなど、随時安全面と自立に配慮し工夫をしている。		